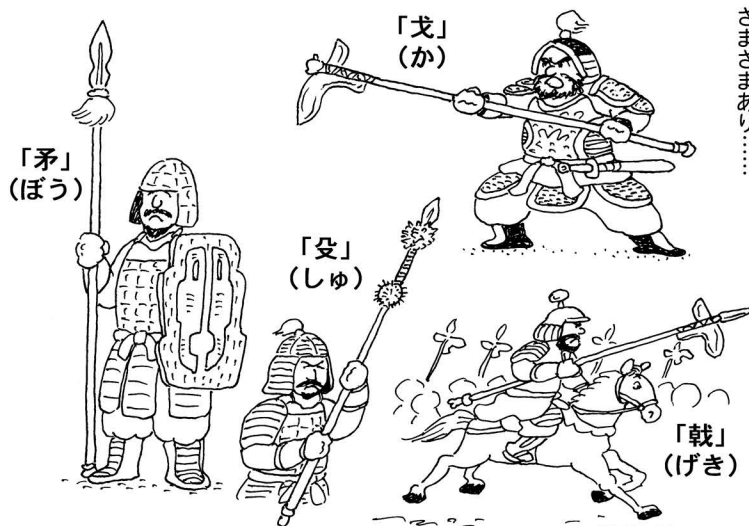


実用の武器として日本に伝えられたのは「矛」のみだった



古代中国では長柄武器はさまざまあり……

■「矛盾」の語源■

中国戦国時代の書『韓非子』にある故事。楚の国に盾と矛を売る商人がいた。「この盾は堅固でどんなに鋭利な刃物も突き通すことはできない」。また「私のこの矛は鋭く、どんなものでも貫く」と自慢。それを聞いた人が「ではその矛でその盾を突いたらどうなるか?」と尋ねた。商人は何も言うことができなかった。つじつまが合わないという意味。



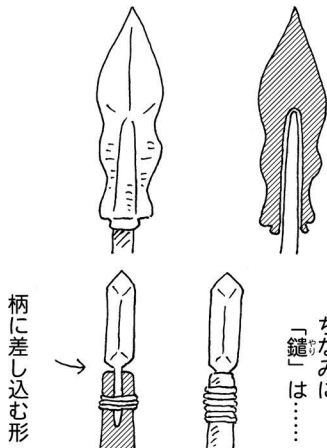
戈矛
鉞梓
鋒戟



日本では長柄武器を「ほこ」と総称したのでこれらすべてが「ほこ」を表す漢字となった

矛の構造

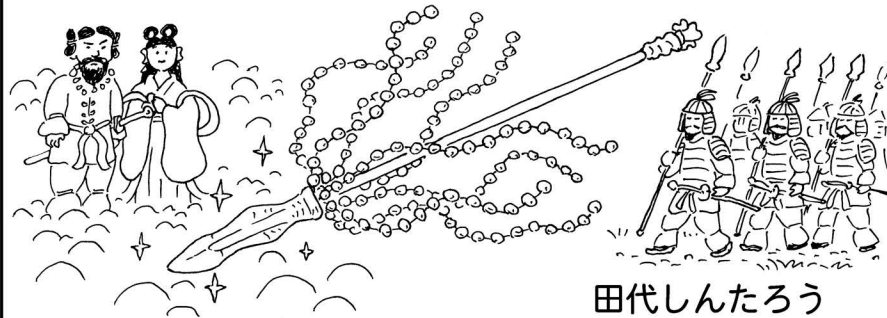
刀身の裾がソケット状で茎部分は柄を差し込む穂袋造りになっている



マンガ・武道のすすめ

日本武道ヒストリア

国生み神話の武具「矛」



「武」という漢字のおこり

武



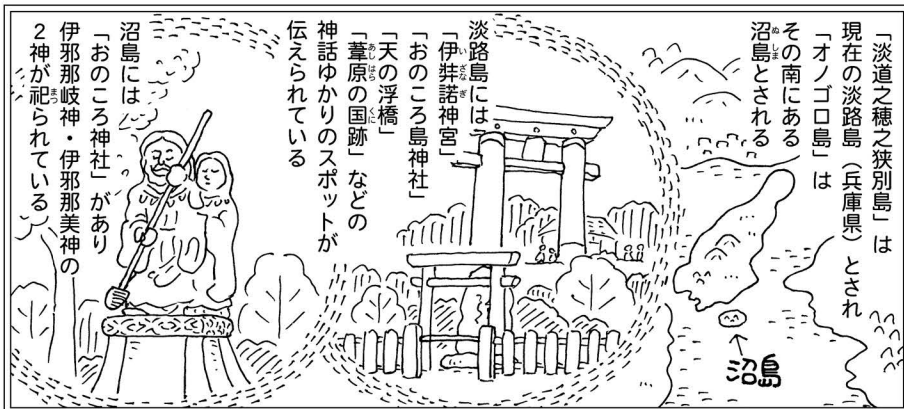
甲骨文字の発明



戈 長柄武器
止 足



「止」は現代日本では「とまる」意味だが元々の漢字の意味は「足」「進む」だったつまり「武」は戈を持って堂々と前進する意味になる



エピソード3 日本列島を生んだ イザナギプレート

約1億数千年前
赤道付近でできた
大きなプレートが
北上しながら
アジア大陸の下に
沈み込んでいた

